

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 1 部門第 1 区分

【発行日】平成29年4月6日 (2017.4.6)

【公表番号】特表2016-510594(P2016-510594A)

【公表日】平成28年4月11日 (2016.4.11)

【年通号数】公開・登録公報2016-022

【出願番号】特願2015-561628(P2015-561628)

【国際特許分類】

C 1 2 N 5/10 (2006.01)

C 1 2 N 15/09 (2006.01)

A 6 1 K 35/17 (2015.01)

A 6 1 P 35/00 (2006.01)

【F I】

C 1 2 N 5/10 Z N A

C 1 2 N 15/00 A

A 6 1 K 35/17 Z

A 6 1 P 35/00

【手続補正書】

【提出日】平成29年3月1日 (2017.3.1)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

ヘパラーゼの組換え発現を含む *ex vivo* で培養された細胞であって、該細胞内で内因性ヘパラーゼが発現されないか、またはヘパラーゼが組換え発現されると、ヘパラーゼの既存の発現が過剰発現される、細胞。

【請求項 2】

T 細胞、NK 細胞、または NK T 細胞である、請求項 1 に記載の細胞。

【請求項 3】

ex vivo で拡張された T 細胞である、請求項 1 に記載の細胞。

【請求項 4】

腫瘍抗原特異的 T 細胞である、請求項 1 に記載の細胞。

【請求項 5】

キメラ抗原受容体 (CAR) 特異的 T 細胞である、請求項 1 に記載の細胞。

【請求項 6】

細胞療法の有効性を改善する方法であって、該療法のための細胞を、ヘパラーゼが発現されるように改変するステップを含む、方法。

【請求項 7】

前記細胞が、内因性ヘパラーゼを発現せず、前記改変するステップが、ヘパラーゼの発現を回復させる、請求項 6 に記載の方法。

【請求項 8】

前記細胞が、内因性ヘパラーゼを発現し、該ヘパラーゼが、過剰発現される、請求項 6 に記載の方法。

【請求項 9】

前記細胞が、腫瘍抗原特異的 T 細胞である、請求項 6 に記載の方法。

【請求項 10】

前記細胞が、C A R 特異的 T 細胞である、請求項 6 に記載の方法。

【請求項 11】

前記細胞療法が、がんのための細胞療法である、請求項 6 に記載の方法。

【請求項 12】

前記細胞療法が、固形腫瘍のための細胞療法である、請求項 6 に記載の方法。

【請求項 13】

治療有効量の治療用細胞を含有し、
該細胞が、ヘパラーゼを組換え発現する e x v i v o で培養された細胞である、
個体におけるがんを処置するための医薬組成物。

【請求項 14】

前記細胞が、

- 1) 内因性ヘパラーゼを発現しないか、または
- 2) 内因性ヘパラーゼを発現し、組換え発現されたヘパラーゼが、過剰発現される

、
請求項 13 に記載の医薬組成物。

【請求項 15】

前記がんが、固形腫瘍を含む、請求項 13 に記載の医薬組成物。

【請求項 16】

前記細胞が、腫瘍抗原特異的 T 細胞である、請求項 13 に記載の医薬組成物。

【請求項 17】

前記細胞が、C A R 特異的 T 細胞である、請求項 13 に記載の医薬組成物。